

# 関西経済レポート

輸出はアジア向けが牽引し増加傾向。生産は概ね横ばい。消費は政策効果の反動が現れている。住宅投資は政策効果により持ち直しの動きがみられる。雇用環境は厳しい状況が続くものの持ち直しの動きがみられる。全体として、足踏み状態から回復へ向かうことが期待される動き。

2011年2月21日

関経連経済調査部

## ～目次～

|            |    |
|------------|----|
| 政府・日銀の景況判断 | 1  |
| 日銀短観       | 2  |
| 生産、大口電力需要  | 3  |
| 輸出入        | 5  |
| 個人消費       | 10 |
| 住宅投資       | 13 |
| 株価為替の動き    | 15 |
| 倒産         | 16 |
| 雇用         | 17 |

# ～政府・日銀の景況判断～

|          | 近畿 | 近畿地区金融経済概況<br>日銀大阪支店                      | 中部 | 金融経済月報<br>日銀名古屋支店   | 全国 | 金融経済月報<br>日銀  | 全国 | 月例経済報告<br>内閣府   |
|----------|----|---|----|---|----|---|----|---|
| 2009年12月 | ㄱ  | 近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している。 | ㄱ  | 東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。                 | ⇒  | わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。       | ⇒  | 景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。                                   |
| 2010年1月  | ⇒  | 近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している。 | ⇒  | 東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。                 | ⇒  | わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。       | ⇒  | 景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。                                   |
| 2010年2月  | ㄱ  | 近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、持ち直している。     | ⇒  | 東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。                 | ⇒  | わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。       | ⇒  | 景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。                                   |
| 2010年3月  | ⇒  | 近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、持ち直している。     | ⇒  | 東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。                 | ⇒  | わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。       | ㄱ  | 景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。                                    |
| 2010年4月  | ㄱ  | 近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している。      | ㄱ  | 東海3県の景気は、持ち直しを続けており、業種間・企業間の格差も徐々に縮小している。                 | ㄱ  | わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、海外経済の改善や各種対策の効果などから、持ち直しを続けている。 | ⇒  | 景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。                                    |
| 2010年5月  | ⇒  | 近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している。      | ⇒  | 東海3県の景気は、持ち直しを続けており、業種間・企業間の格差も徐々に縮小している。                 | ㄱ  | わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。                            | ⇒  | 景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。                                    |
| 2010年6月  | ⇒  | 近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している。      | ㄱ  | 東海3県の景気は、生産の増勢が足もと一服しているが、全体としては持ち直しを続けている。               | ⇒  | わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。                            | ㄱ  | 景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。                       |
| 2010年7月  | ㄱ  | 近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している。      | ㄱ  | 東海3県の景気は、生産の増勢が一時的に鈍化した後、その後は再び増勢が戻りつつあり、全体として持ち直しを続けている。 | ⇒  | わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。                            | ⇒  | 景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。                       |
| 2010年8月  | ⇒  | 近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している。      | ⇒  | 東海3県の景気は、持ち直しを続けている。                                      | ⇒  | わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。                            | ⇒  | 景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。                       |
| 2010年9月  | ⇒  | 近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している。      | ⇒  | 東海3県の景気は、持ち直しを続けている。                                      | ⇒  | わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。                            | ㄱ  | 景気は、引き続き持ち直してきており、自律的回復に向けた動きもみられるが、このところ環境の厳しさは増している。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。 |
| 2010年10月 | ⇒  | 近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している。      | ㄱ  | 東海3県の景気は、持ち直しを続けてきたが、ここに来て急速に減速しているようにうかがわれる。             | ㄱ  | わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きが弱まっている。                          | ㄱ  | 景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。                                       |
| 2010年11月 | ㄱ  | 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるものの、このところ足踏み感も窺われている。 | ㄱ  | 東海3県の景気は、急速に減速している。                                       | ㄱ  | わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる。                        | ⇒  | 景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。                                       |
| 2010年12月 | ㄱ  | 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるものの、このところ足踏み状態となっている。 | ㄱ  | 東海3県の景気は、足踏み状態となっている。                                     | ⇒  | わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる。                        | ⇒  | 景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。                                       |
| 2011年1月  | ㄱ  | 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるものの、このところ足踏み状態となっている。 | ⇒  | 東海3県の景気は、足踏み状態となっている。                                     | ⇒  | わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる。                        | ㄱ  | 景気は、足踏み状態にあるが、一部に持ち直しに向けた動きがみられる。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。                     |

## ○日銀大阪支店は1月の景況判断を

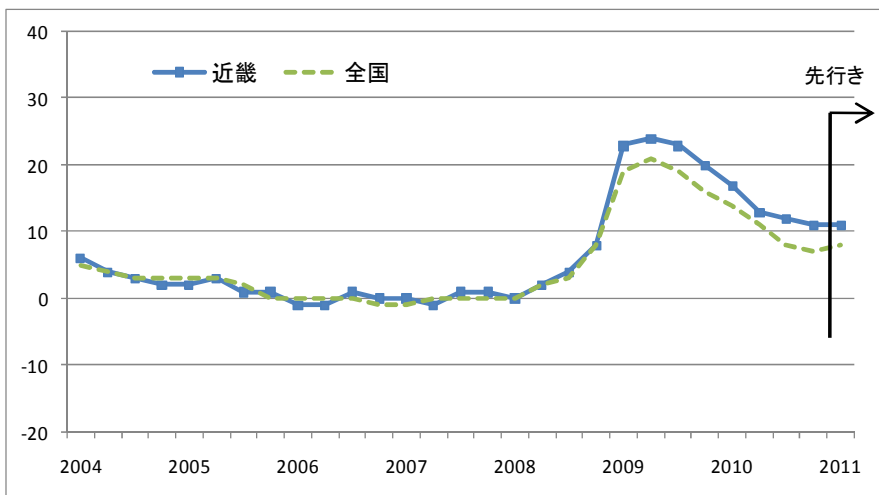
「**近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるものの、このところ足踏み状態となっている。**」とした。

「すなわち、昨年央まで増加を続けてきた輸出や生産は、アジア向け輸出の伸び鈍化などから、このところ増勢一服となっている。設備投資は、企業収益の改善が続く中で、緩やかに持ち直している。また、雇用面では、失業率の高止まりなどに厳しさを残しつつも、賃金は下げ止まってきている。こうしたもとで、個人消費は、各種の駆け込みと反動の動きを伴いながら、緩やかに持ち直しつつある。この間、公共投資は、減少している。

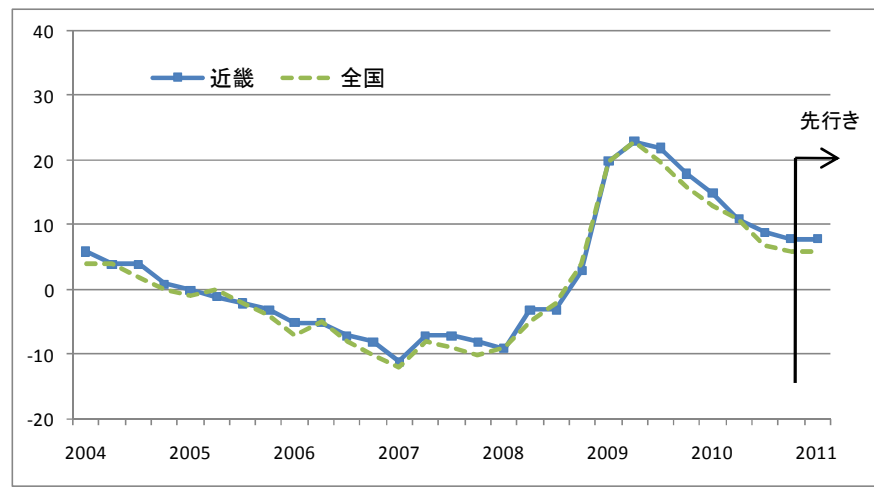
先行きについては、海外経済の動向や為替円高、国際商品市況上昇の影響に加え、各種政策措置の終了等に伴う耐久消費財需要の動向などを注視していく必要がある。」とした。

# ～日銀短観～

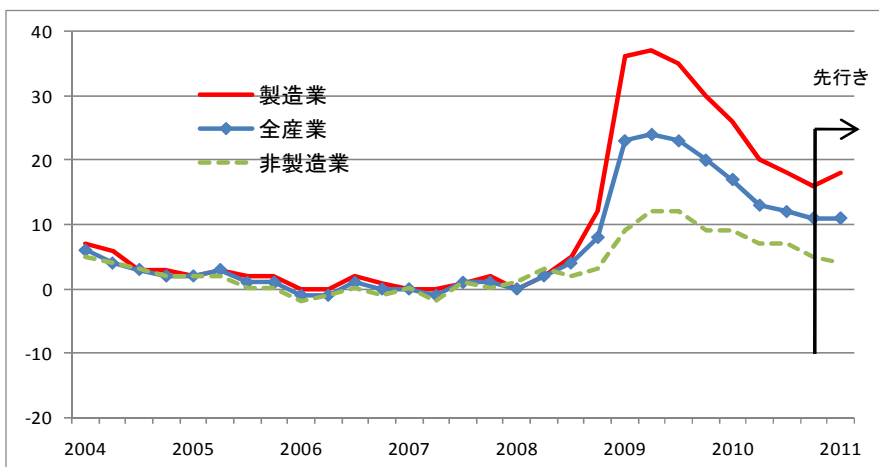
生産・営業用設備判断DI（「過剰」－「不足」）



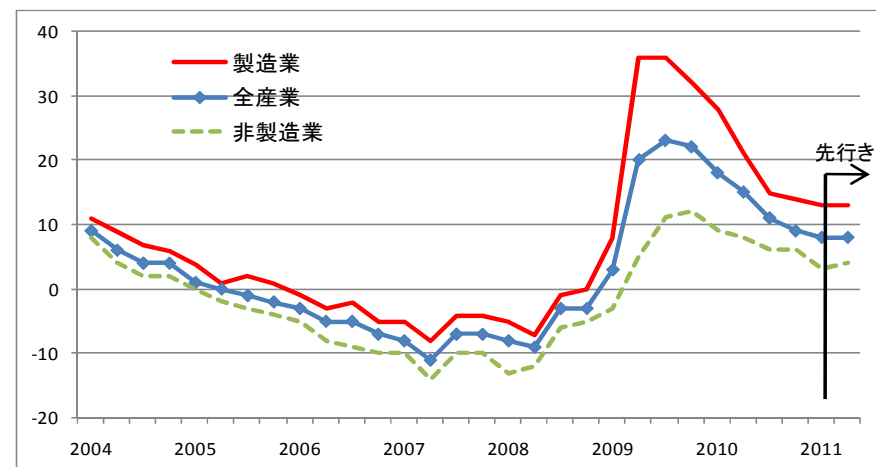
雇用人員判断DI（「過剰」－「不足」）



生産・営業用設備判断DI 近畿・業種別



雇用人員判断DI 近畿・業種別

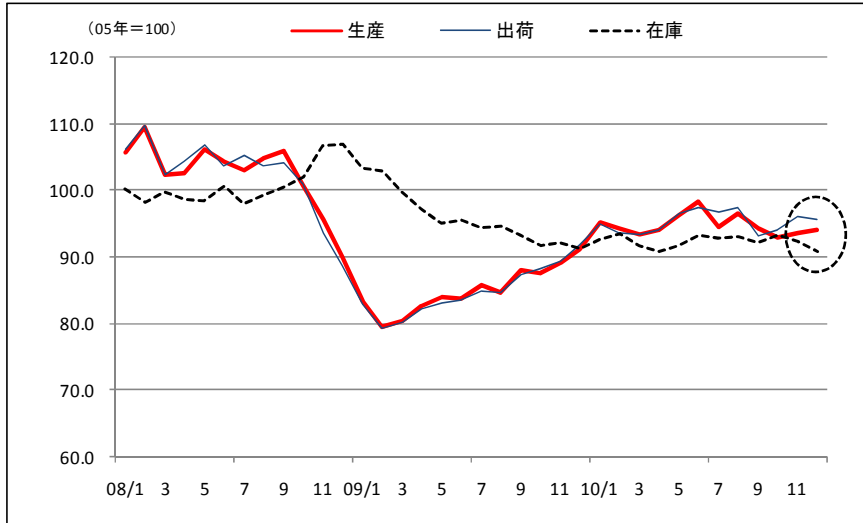


○12月の日銀短観によると、近畿の足下の設備判断DI(過剰－不足)は、全産業11、製造業16、非製造業5。全産業とも前回調査時から改善。引き続き製造業で過剰感が高い。先行きは、製造業で悪化、非製造業で改善の見込み。

○12月の日銀短観によると、近畿の足下の雇用人員判断DI(過剰－不足)は、全産業8、製造業13、非製造業3と、全業種とも前回調査時から改善。設備同様、製造業で過剰感が高い。先行きは、製造業で横ばい、非製造業で悪化の見込み。

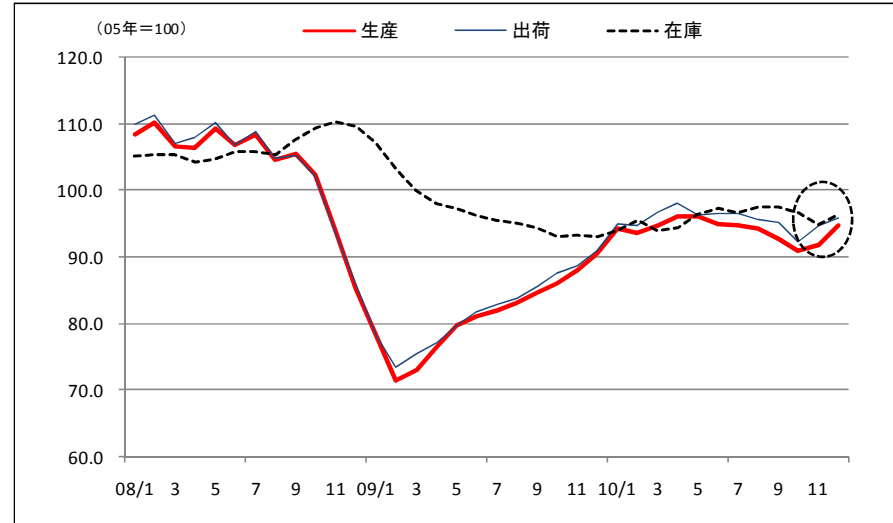
# ～生産～

鉱工業指数の推移（近畿 2010年12月速報まで）



(出所) 近畿経済産業局

鉱工業指数の推移（全国 2010年12月確報まで）



(出所) 経済産業省

業種別鉱工業  
生産指数  
(前月比、%)

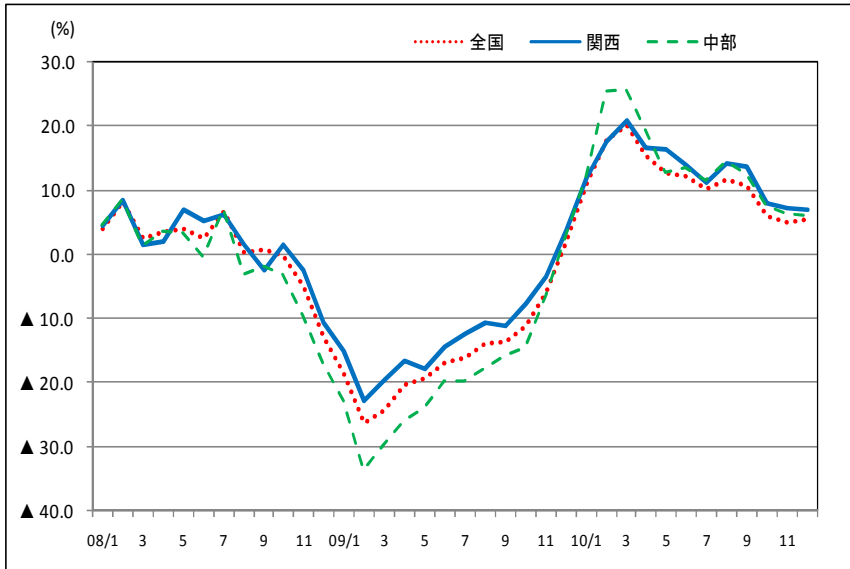
\*網掛は、生産が  
前月比プラスの業種

|       | 全体   | 鉄鋼   | 金属製品 | 一般機械 | 電気機械 | 情報通信<br>機械 | 電子部品<br>デバイス | 輸送機械 | 化学   | 食品<br>たばこ |
|-------|------|------|------|------|------|------------|--------------|------|------|-----------|
| 近畿9月  | ▲2.8 | 3.3  | ▲7.5 | ▲0.6 | ▲4.2 | ▲14.0      | 4.2          | ▲4.3 | 2.3  | 1.2       |
| 近畿10月 | ▲0.8 | ▲5.2 | 0.2  | 2.2  | ▲3.3 | 9.0        | ▲3.1         | ▲2.4 | ▲3.9 | ▲8.6      |
| 近畿11月 | 0.8  | 5.1  | 3.7  | 5.3  | 4.0  | ▲32.0      | ▲1.2         | 1.0  | 1.4  | ▲2.3      |
| 近畿12月 | 0.5  | 4.1  | ▲6.4 | ▲3.7 | 5.6  | 6.6        | ▲6.3         | 1.1  | 0.4  | 2.8       |
| 全国12月 | 3.3  | 5.6  | ▲0.8 | 0.0  | 1.8  | 7.5        | 7.7          | 5.3  | 1.9  | 2.0       |

- ・近畿の12月（速報）の鉱工業生産指数は、94.1。前月比+0.5%と2カ月連続の上昇。  
出荷は前月比▲0.4%の95.7と、3カ月ぶりの低下。在庫は、前月比▲1.6%の90.7と、2カ月連続の低下。  
生産上昇に寄与したのは電気機械工業、鉄鋼業、窯業・土木製品工業等。品目別にみると、蒸気タービン部品、セパレート形エアコン、リチウムイオン蓄電池の順に上昇に寄与。低下したのは、一般機械工業、電子部品・デバイス工業、金属製品工業等。総じてみれば、生産は横ばい。
- ・全国の12月（確報）の鉱工業生産指数は、94.8。前月比+3.3%と2カ月連続の上昇。  
出荷は、前月比+1.2%の95.8と2カ月連続の上昇。在庫は、前月比+1.6%の96.4と3カ月ぶりの上昇。  
業種別では輸送機械工業、電子部品・デバイス工業、鉄鋼業等が生産上昇に寄与。品目別では、普通乗用車、固定コンデンサ、駆動伝導・操縦装置部品等が生産上昇に寄与。製造工業生産予測調査によると、1月は上昇、2月は低下を予測。

# ～生産～

産業用大口電力需要（対前年伸び率・2010年12月まで）



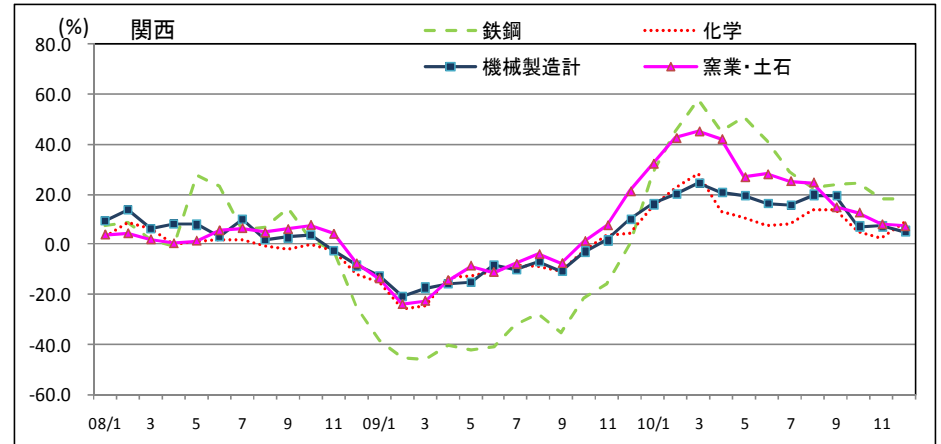
(出所) 電気事業連合会

・12月の関西の大口電力実績は、前年同月比+6.8%と、13カ月連続で前年実績を上回った。

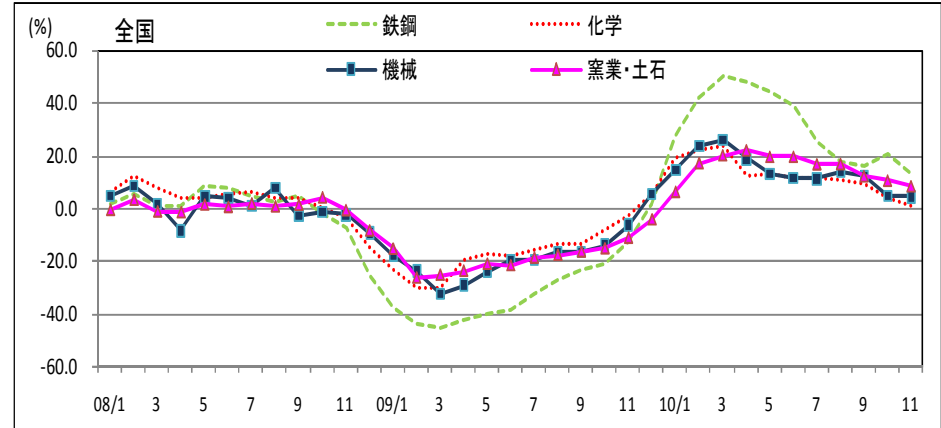
全国は+5.2%で、13カ月連続で前年実績を上回った。

・業種別(関西)では、製造業10業種中10業種で対前年比プラス。鉄鋼は、粗鋼生産量が増加したことなどから、化学は、ソーダ、石油化学および酸素がプラスとなったことなどから、窯業・土石製品は、ガラスおよびセメントがプラスとなったことなどから、それぞれ前年を上回った。

大口電力産業別実績（対前年伸び率 2010年12月まで）



(出所) 電気事業連合会



(出所) 関西電力

大口電力産業別実績（前年同月比伸び率 2010年12月まで・関西）

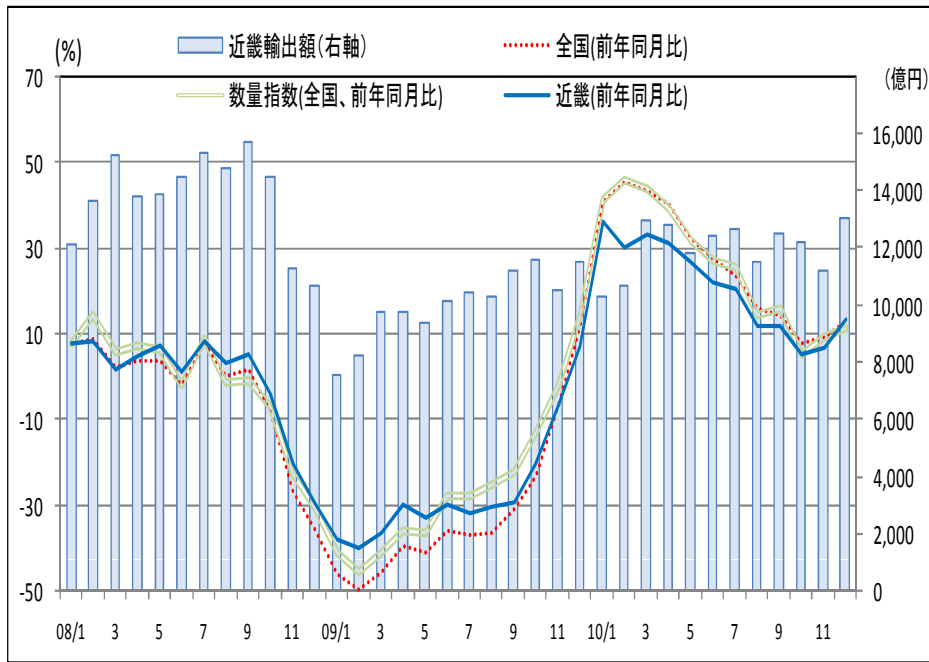
|     | 食料品 | 繊維   | パルプ・紙 | 化学  | 石油・石炭 | ゴム製品 | 窯業・土石 | 鉄鋼   | 非鉄金属 | 機械製造計 |
|-----|-----|------|-------|-----|-------|------|-------|------|------|-------|
| 10月 | 1.4 | 2.5  | ▲ 2.0 | 5.2 | 44.3  | 8.0  | 12.5  | 24.5 | 9.7  | 7.0   |
| 11月 | 2.4 | 1.8  | 0.1   | 2.4 | 105.8 | 8.7  | 7.8   | 18.5 | 9.4  | 7.1   |
| 12月 | 3.8 | 10.7 | 2.0   | 8.5 | 67.9  | 5.8  | 7.0   | 18.1 | 7.4  | 5.1   |

(%)

\*網掛は、伸び率が前年比プラスの業種

# ～輸出～

## 輸出金額・前年同月比増減率推移 (2010年12月速報まで)

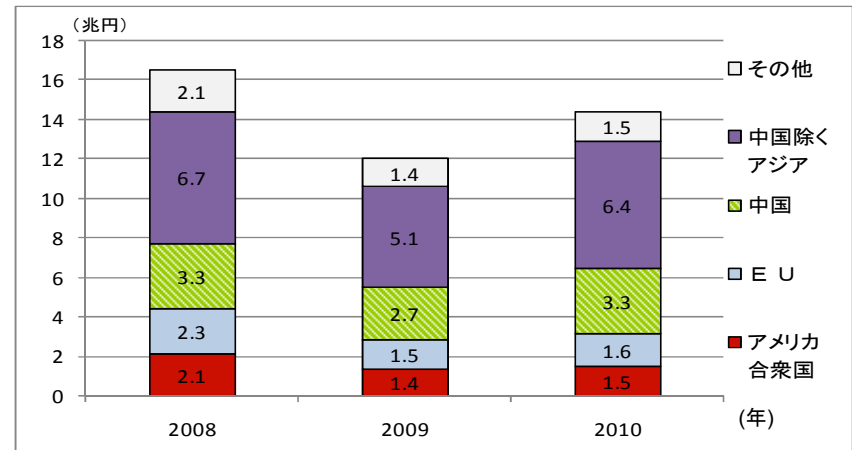


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

### ○近畿の月次の輸出動向 (2010年12月速報まで)

- ・12月の近畿の輸出額は1兆3,053億円、前年同月比+13.5%と13カ月連続の前年比プラス。プラス幅は前月(+6.8%)から増加。
- ・地域別では、アジアが前年同月比+17.2%、うち中国が同+22.7%と、ともに14カ月連続のプラス。中国向け輸出額は3,370億円と、過去最高額。  
EUは同+4.8%、米国は同+10.1%と、ともに12カ月連続のプラス。
- ・エクスカーベーターなどの建設用・鉱山用機械、半導体等製造装置、石油製品等の鉱物性燃料、等が増加に寄与(すべて中国向け)。
- ・数量を表す貿易指数(全国12月)は前年同月比+11.5%と、13カ月連続のプラス。

## 近畿 年間輸出額の推移

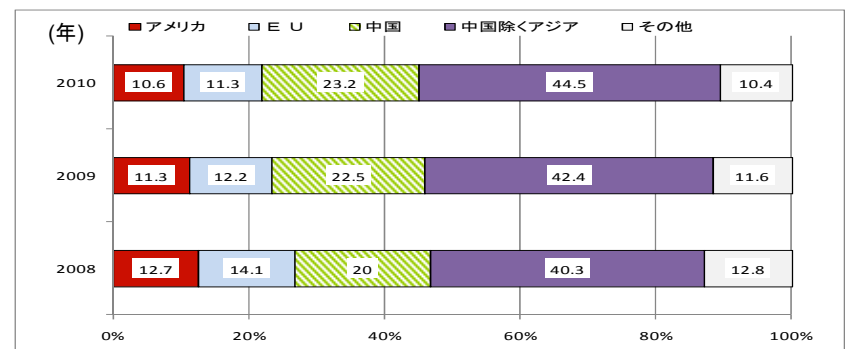


### ○近畿の年間の輸出動向

- ・2010年の近畿の輸出額は14兆4,219億円、前年比+19.9%と3年ぶりのプラス。すべての主要地域向けでプラス。
- ・2008年比では、総額が▲12.9%、アジア向けが▲2.3%、うち中国向けが+0.7%、EU向けが▲30.5%、米国向けが▲27.0%。

出所：大阪税関 資料

## 近畿 年間輸出額 地域別構成比の推移

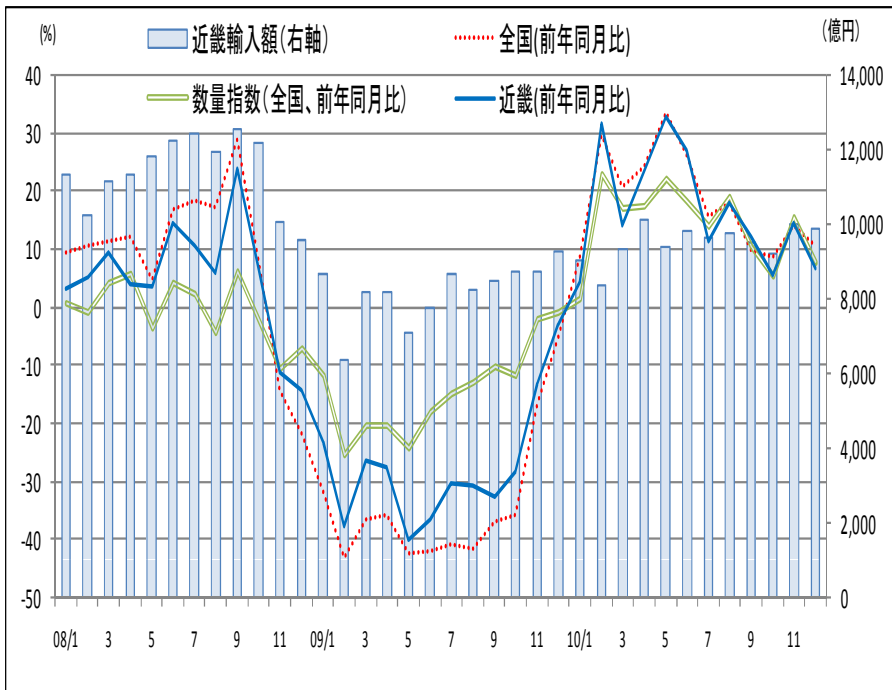


- ・リーマンショック以降、欧米向け輸出の比率が低下し、中国・アジア向け輸出の比率が高まっている。

出所：大阪税関 資料

# ～輸入～

輸入金額・前年同月比増減率推移（2010年12月速報まで）

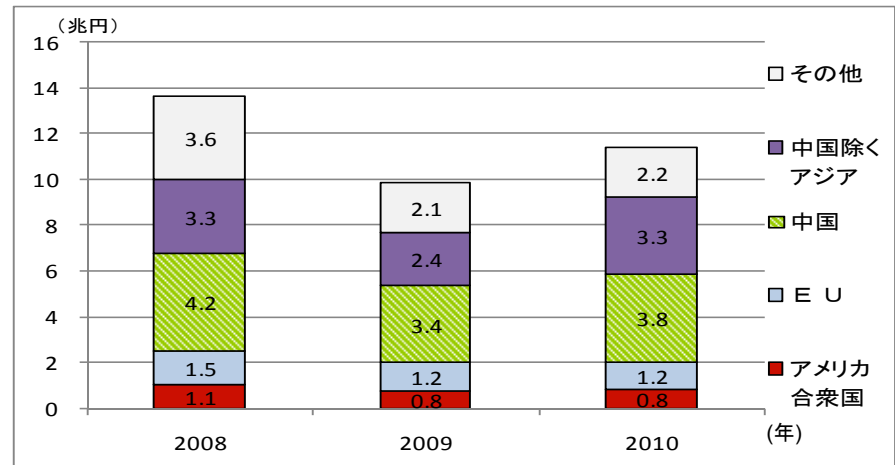


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

## ○近畿の月次の輸入動向（2010年12月速報まで）

- ・ 12月の近畿の輸入額は9,899億円、前年同月比+6.6%と、12カ月連続のプラス。プラス幅は前月（14.4%）より縮小。
- ・ 地域別では、アジアが前年同月比+10.2%と12カ連続のプラス。アジアのうち中国が同+13.3。米国が同+3.6%と2カ月連続のプラス、EUが同▲5.2%と6カ月連続のマイナス。
- ・ 品目別では、音響・映像機器(含部品)、鉄鉱石、衣類及び同附属品、石炭等が増加に寄与。
- ・ 数量を表す貿易指数(全国12月)は、前年同月比+7.7%と、10カ月連続のプラス。

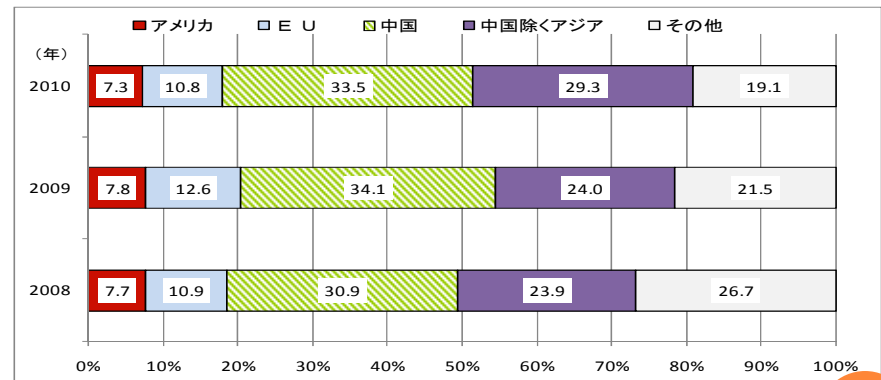
近畿 年間輸入額の推移



## ○近畿の年間の輸入動向

- ・ 2010年の近畿の輸入額は11兆4,088億円、前年比+15.9%と2年ぶりのプラス。EUを除き全ての主要地域でプラス。
- ・ 2008年比では、総額が▲16.6%、アジアが▲10.6%、うち中国が▲9.5%、EU向けが▲17.2%、米国が▲21.4%。

近畿 年間輸入額 地域別構成比の推移

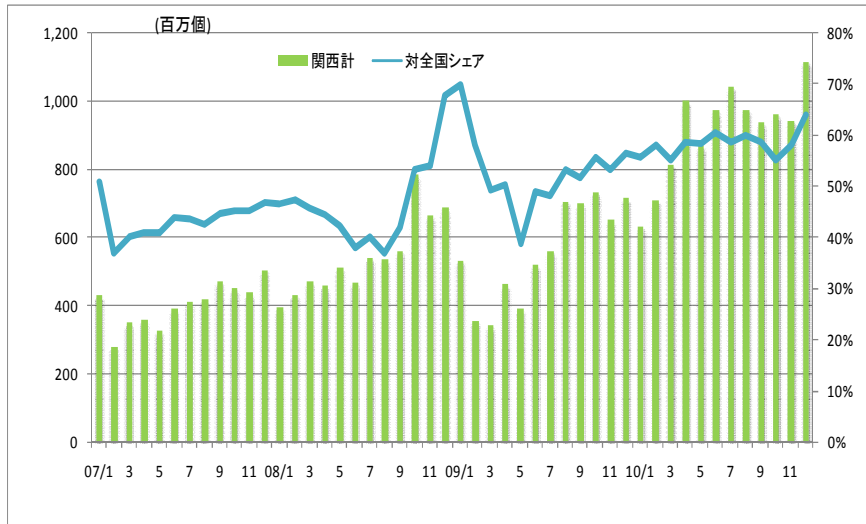


- ・ リーマンショック以降、アジアからの輸入の比率が高まっている。 出所：大阪市、神戸市、関西国際空港(株) 資料



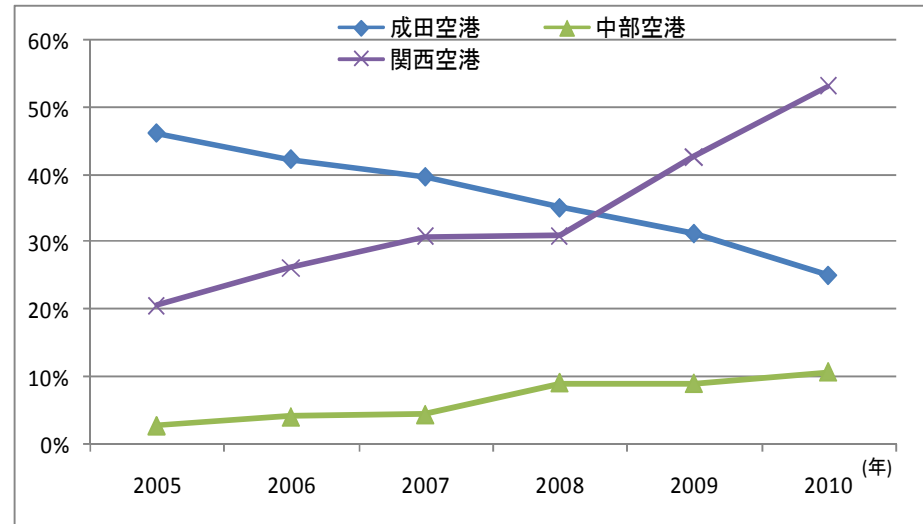
# 関西経済トピックス～LED(発光ダイオード)の輸出動向～

LED輸出量の推移(関西)



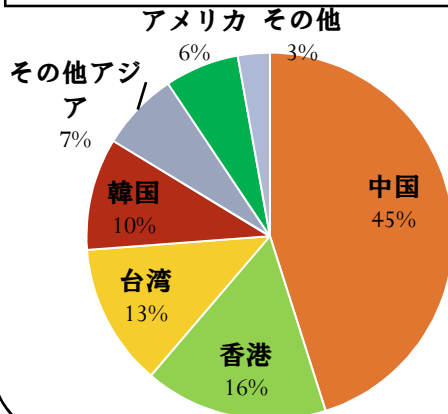
- 12月の関西のLED輸出量は11億1297万3771個、前年同月比+56%。対全国シェアは64%。
- 2010年の輸出量の累計は、約100億個。2009年の輸出量の累計66億個を大きく上回っている。
- LEDの需要は今後も増加すると思われる。

空港別の対全国シェアの推移(数量ベース)

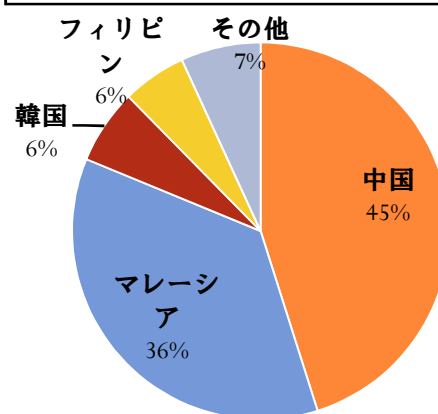


- 2009年に関西空港からの輸出量が成田空港を抜き、LED輸出の空港別シェア1位となった。
- 関西空港の2010年の対全国シェアは、53%。
- 関西、成田、中部の3空港で、対全国シェアの約90%に達する。

関西のLED輸出先(2010年)



関西のLED輸入先(2010年)

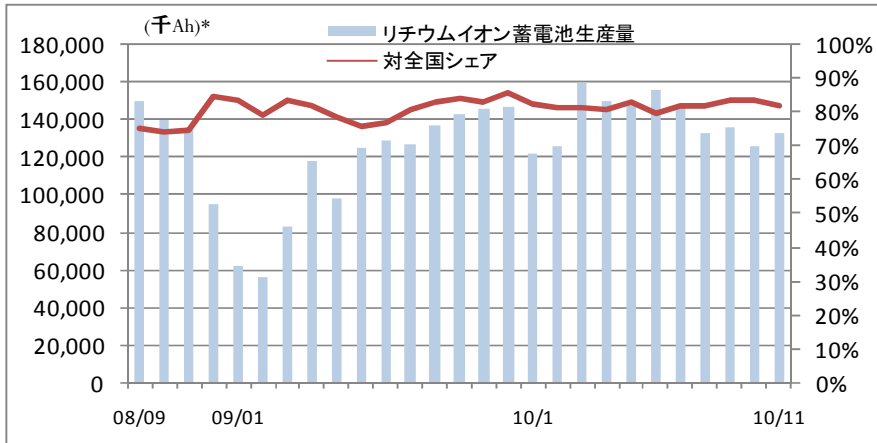


- ・2010年の関西の輸出先(数量ベース)は、中国が45%とトップで、香港、台湾が続く。アジア向けで全体の約90%を占める。
- ・2010年の関西の輸入量は、約37億7897万個。約80%を中国とマレーシアが占め、ほとんどがアジアからの輸入となっている。

関西のデータは、関西空港、大阪港、神戸港、京都の各税関の合計。  
出所:財務省貿易統計

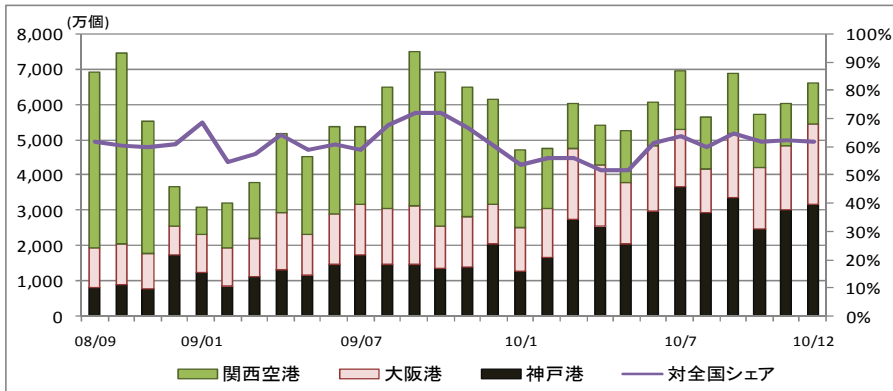
# ～電池産業の生産拠点集積～

リチウムイオン蓄電池 生産量の推移(近畿)



\*Ah・・・アンペア時。電池の容量を表す。 出所：経済産業省、近畿経済産業局 資料

リチウムイオン電池(蓄電池)輸出量の推移(関西空港、大阪港、神戸港)

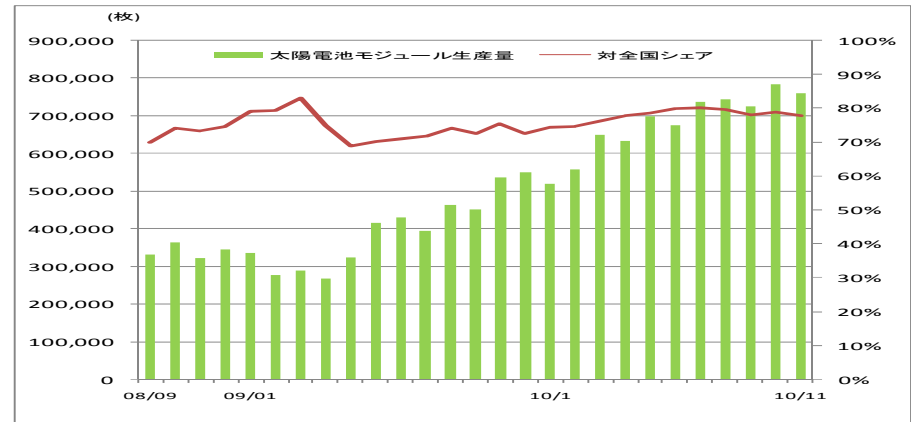


出所：財務省、大阪税関 資料

○近畿のリチウムイオン蓄電池の生産は、2009年に入り回復基調が続いていたが、2010年9月の生産量より前年同月比マイナスとなり、2010年11月は同 ▲ 9.2 %。全国に占める割合は依然高く、11月は、81.7%。

○近畿のリチウムイオン電池の輸出量は堅調に推移している。12月の輸出量は前年同月比+7.3%と、5カ月ぶりのプラス。対全国シェアは依然高く、12月は、61.9%。

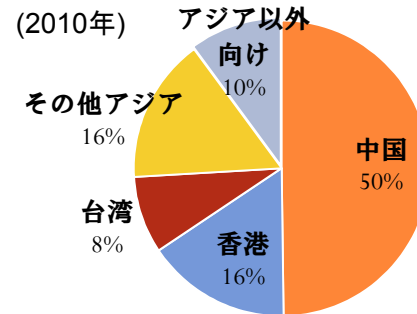
太陽電池モジュール 生産量の推移(近畿)



出所：経済産業省、近畿経済産業局 資料

○近畿の太陽電池モジュールの生産枚数は、2009年に入り減少したものの政策の後押しもあり、足下増加傾向が続く。  
2010年11月は、759,890枚、前年同月比+41.5%と大幅に増加。  
○全国に占める割合が70～80%台と高く、11月は77.7%。

リチウムイオン電池輸出先 (関西空港、大阪港、神戸港)



関西のリチウムイオン電池の主要輸出港の構成比の推移 (関西空港、大阪港、神戸港)

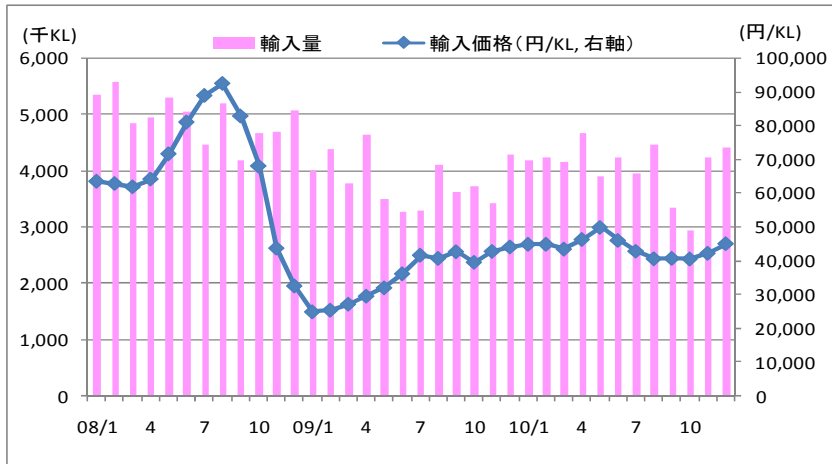
| (年)  | 2008 | 2009 | 2010 |
|------|------|------|------|
| 関西空港 | 67%  | 49%  | 25%  |
| 大阪港  | 16%  | 25%  | 29%  |
| 神戸港  | 16%  | 26%  | 46%  |

出所：財務省、大阪税関 資料

○アジア向け輸出が90%を占めた。  
○関空からの輸出割合が大幅に低下し、神戸港、大阪港の割合が増加。発熱等の危険性から航空貨物への積載規制が強化されていることや、需要拡大の一服から航空輸送を要する出荷が減少した影響と思われる。

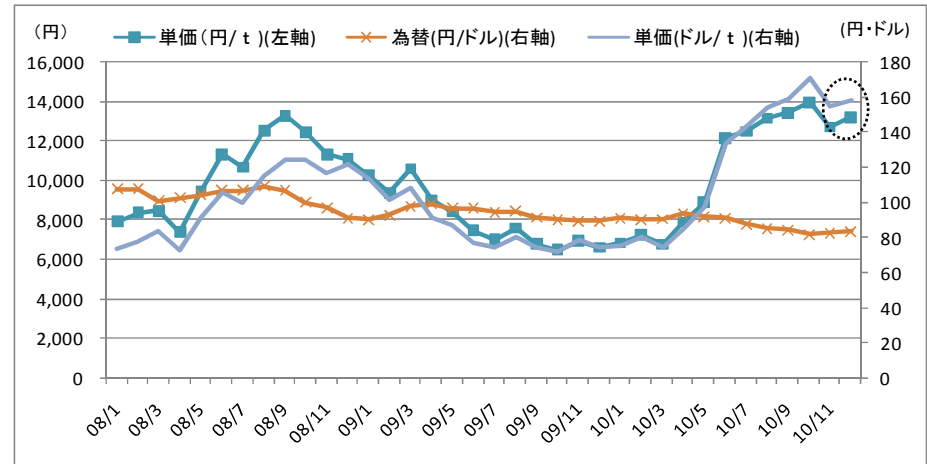
# ～資源価格の動向～

原油及び粗油の輸入量・輸入価格の推移(近畿)



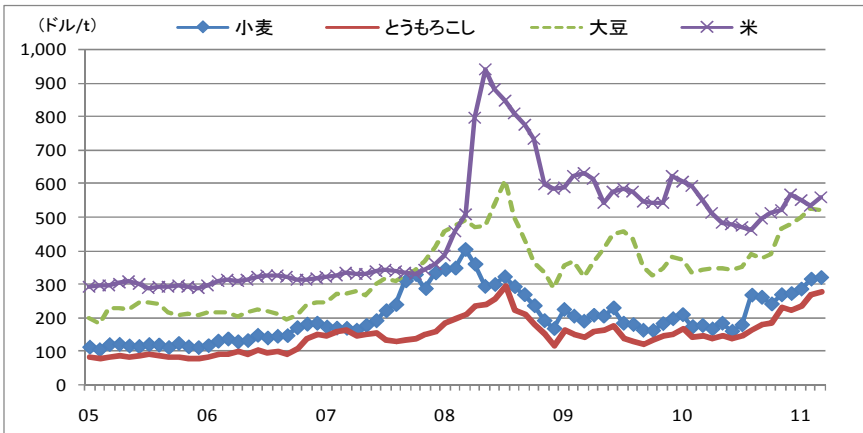
・12月の近畿の原油輸入価格は45,029円/KL、前月比+2,858円/KLと、3カ月連続で上昇。  
出所：財務省、大阪税関貿易統計  
注：鉄鉱石・原油とも、単価は輸入金額/輸入数量で算出

鉄鉱石価格の推移(近畿)



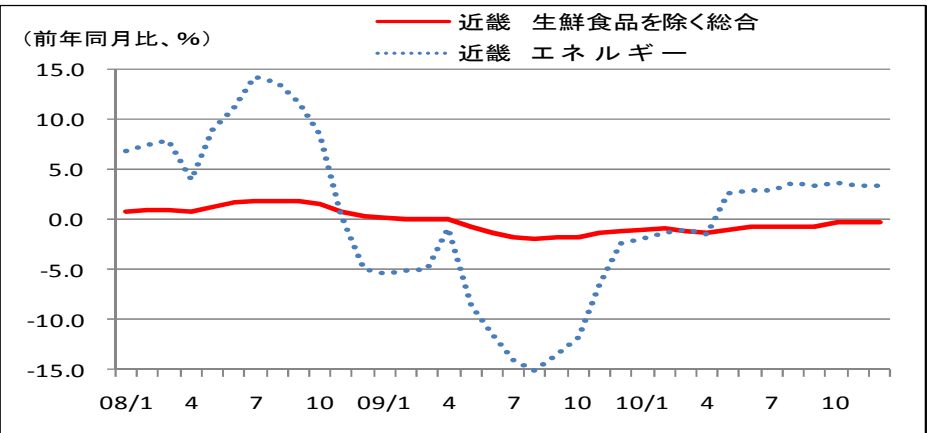
・2010年度より日本の高炉メーカーと鉱山会社との国際的な鉄鉱石の値決め方式が変更され、10月は過去最高水準の170.6ドル/tとなった。11月は一旦低下したが、12月は158.0ドル/t(前月比+3.8ドル)と再び上昇。  
出所：財務省貿易統計、日本銀行外国為替相場

(参考) 穀物等の国際価格の推移



・干ばつ・原油価格上昇等の影響を受け、2008年前半に急激に上昇。足下は、天候不順等の影響から上昇している。  
出所：農林水産省  
※米はタイ国家貿易取引委員会、その他はシカゴ商品取引所の価格

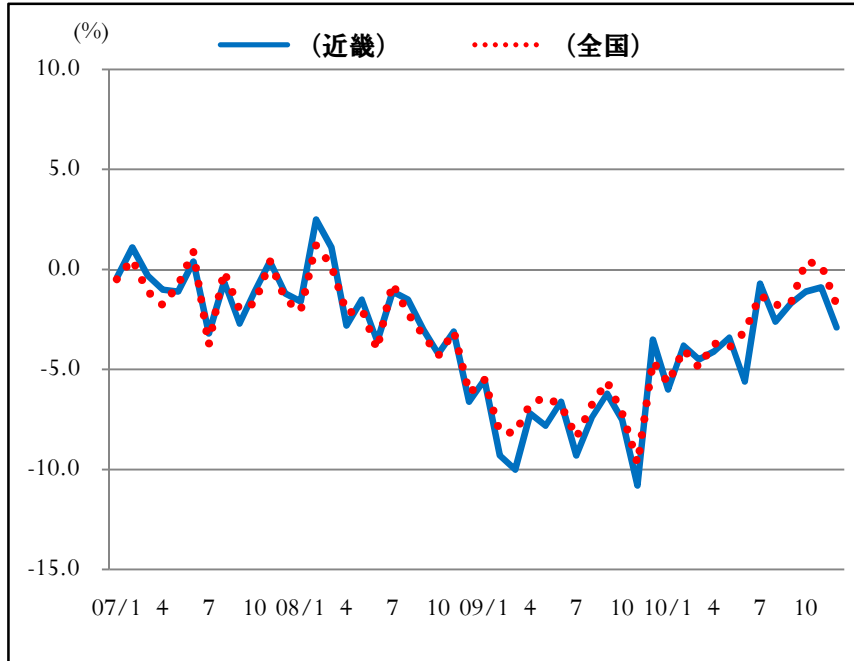
消費者物価指数 前年同月比の推移(近畿)



・近畿の12月のエネルギーの消費者物価指数は105.8で前月比+0.1%、前年同月比+3.3%。ガソリン、灯油等の石油製品価格の上昇から4月以降前年同月比での上昇が続いている。  
出所：総務省

## ～個人消費～

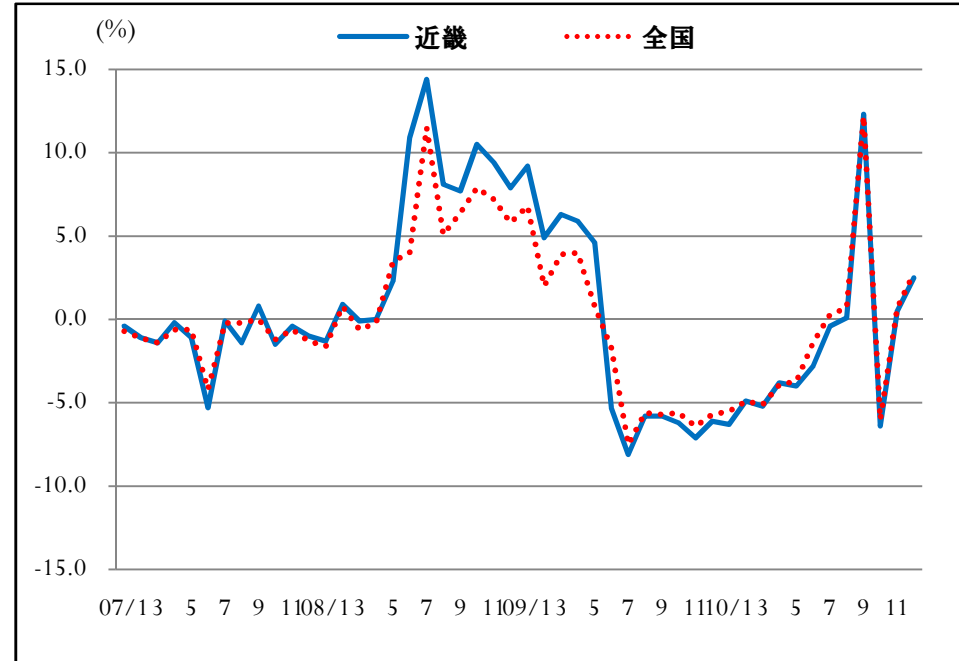
大型小売店売上高（前年同月比・2010年12月まで）



（出所）近畿経済産業局

- ・ 近畿の12月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(既存店ベース)は、前年同月比▲2.9%と33カ月連続のマイナス。前月(▲0.9%)からマイナス幅が拡大。衣料品、飲食料品、家具・家電・家庭用品等が前年を下回った。
- ・ 百貨店が同▲2.0%と5カ月連続のマイナス。スーパーは同▲0.7%と3カ月連続のマイナス。
- ・ 全国の大型小売店販売額は、同▲1.8%と、2カ月ぶりのマイナス。

コンビニエンスストア販売額（前年同月比・2010年12月まで）

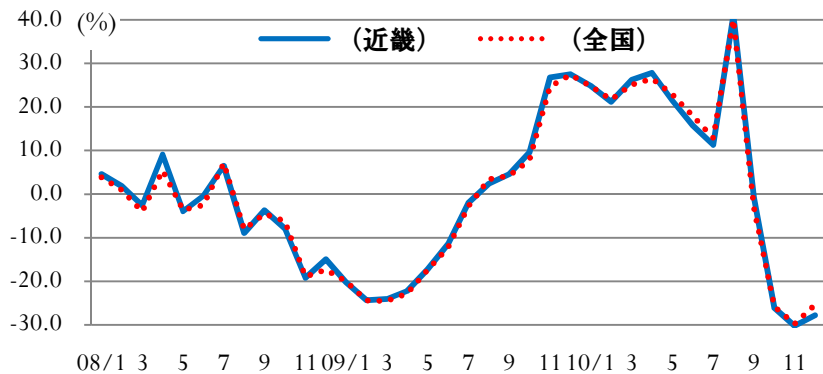


（出所）近畿経済産業局

- ・ 近畿の12月のコンビニエンスストア販売額(既存店ベース)は、前年同月比+2.5%と2カ月連続のプラス。
- ・ 全国は同+2.8%と、2カ月連続のプラス。
- ・ 食品・非食品とも堅調な数字を維持し、たばこ税増税により一時的に減少したたばこの売上也金額ベースで大きく前年を上回り、全体の売り上げを牽引した。（全国）  
※（社）日本フランチャイズチェーン協会調べ

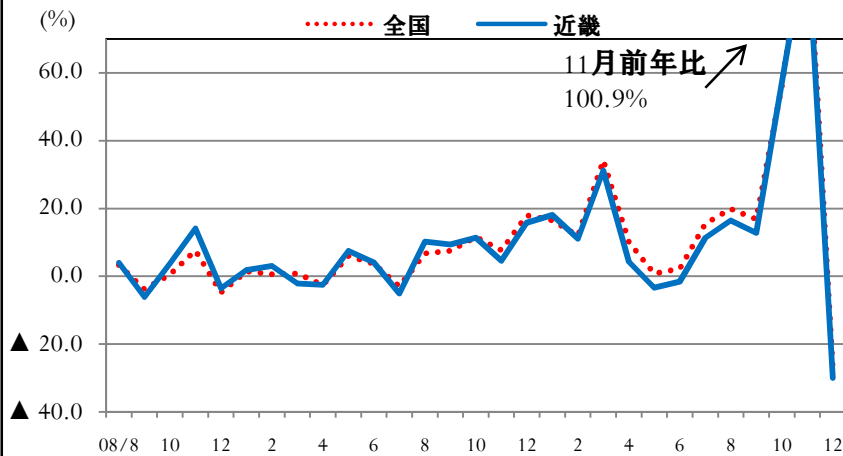
# ～個人消費～

新車登録台数（前年同月比・2010年12月まで）



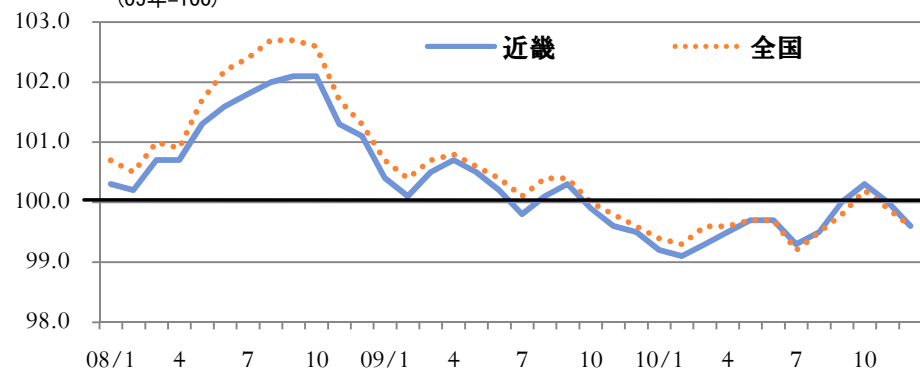
- ・近畿の12月の新車登録台数は、前年同月比▲27.8%。車種別では普通車▲32.7%、小型車▲37.2%、軽四車▲7.7%。
- (出所) 近畿経済産業局

家電販売額（前年同月比・2010年12月まで）



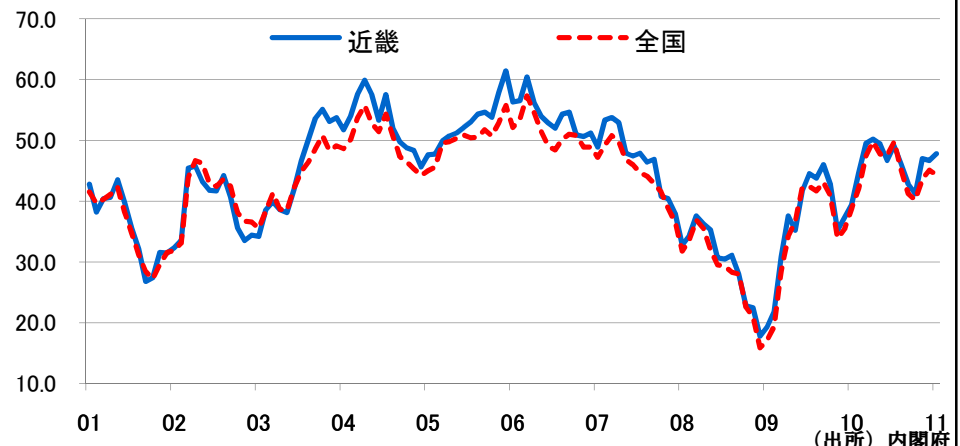
- ・近畿の12月の家電販売額は、前年同月比▲30.0%と、6カ月ぶりの前年比マイナス。前月までのエコポイント制度変更に伴う駆け込み需要の反動から、カーテレビ(▲59.2%)、冷蔵庫(▲33.4%)、DVD(▲31.7%)、等が前年を大きく下回った。
- (出所) 近畿経済産業局

消費者物価指数（総合指数・2010年12月まで）



- ・近畿の12月の消費者物価指数(総合指数)は、前月から▲0.4%の99.6と、2カ月連続の下落。前年同月比では+0.1%の上昇。食料(酒を除く)及びエネルギーを除く総合指数は97.9で、前月比横ばい、前年同月比▲0.3%。
- (出所) 総務省

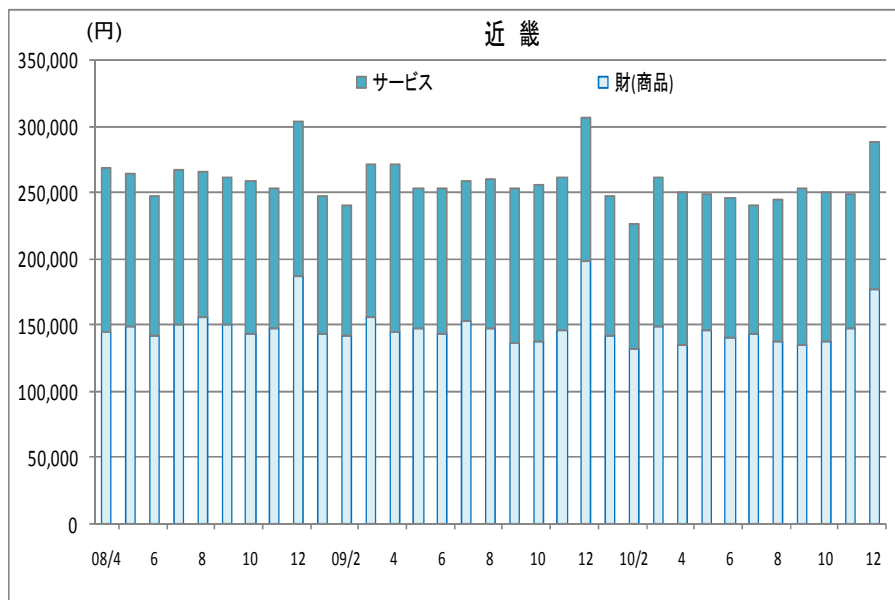
景気ウォッチャー調査(現状判断DI・方向性 2011年1月まで)



- ・1月の近畿の現状判断DIは47.8で、前月比+1.1ポイント、2カ月ぶりのプラス。全国は前月比▲0.8ポイントの44.3。
  - ・家電エコポイントによる駆け込み需要の反動等はあるものの、気温低下により衣料品等が好調であったこと等から上昇。
  - ・近畿の先行き判断DIは47.6、前月比+2.6ポイント。
- (出所) 内閣府

## 【参考—個人消費 家計調査から】

消費支出(財・サービス区分別支出)の推移(近畿)



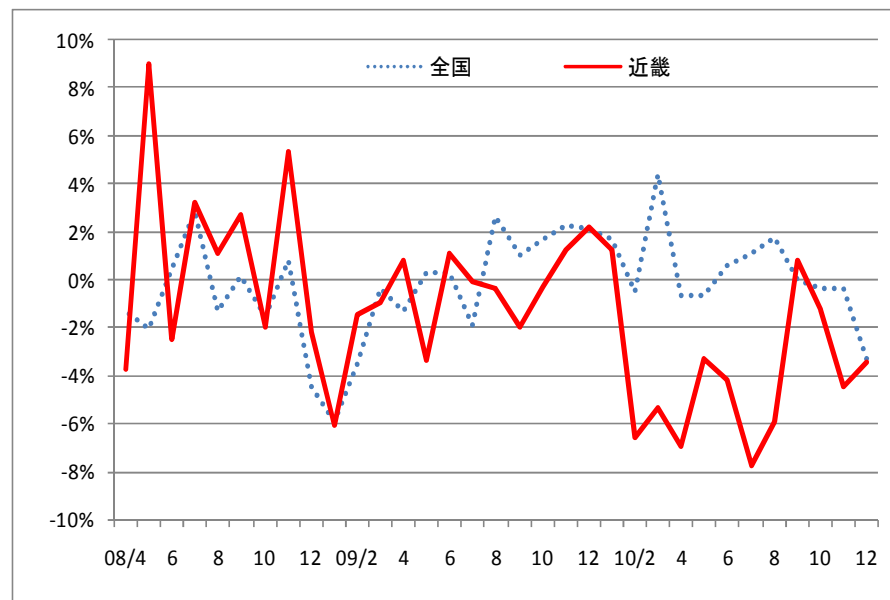
出所:総務省家計調査

○家計調査によると、近畿の2010年12月の財・サービス区分別支出は、288,237円、前年同月比(名目)▲6.1%。前月(▲5.0%)からマイナス幅は拡大。

○内訳は、財(商品)が176,738円、前年同月比▲10.8%。3カ月ぶりのマイナス。サービスが111,499円、同+2.6%。3カ月ぶりのプラス。財の内訳は、耐久消費財20,013円、半耐久消費財27,663円、非耐久消費財129,063円。

○なお、全国の2010年12月の財・サービス区分別支出は289,880円、前年同月比▲3.0%。財(商品)が179,372円、前年同月比▲4.1%。サービスが110,508円、前年同月比▲1.1%。

消費支出 対前年同月実質増減率の推移(全国・近畿)



出所:総務省家計調査

○近畿の2010年12月の消費支出の、対前年同月実質増減率(物価変動の要因を除いた増減率)は▲3.5%。前月(同▲4.5%)からマイナス幅は縮小。

内訳は、交通・通信 ▲22.8%、家具・家事用品▲21.3%、教育▲19.4%等がマイナス。自動車等関係費、家事用耐久財、授業料等が減少。エコカー補助時金終了や家電エコポイント制度変更による駆け込みの反動があると思われる。プラスだったのは、住居+12.8%、食料+2.1%等。

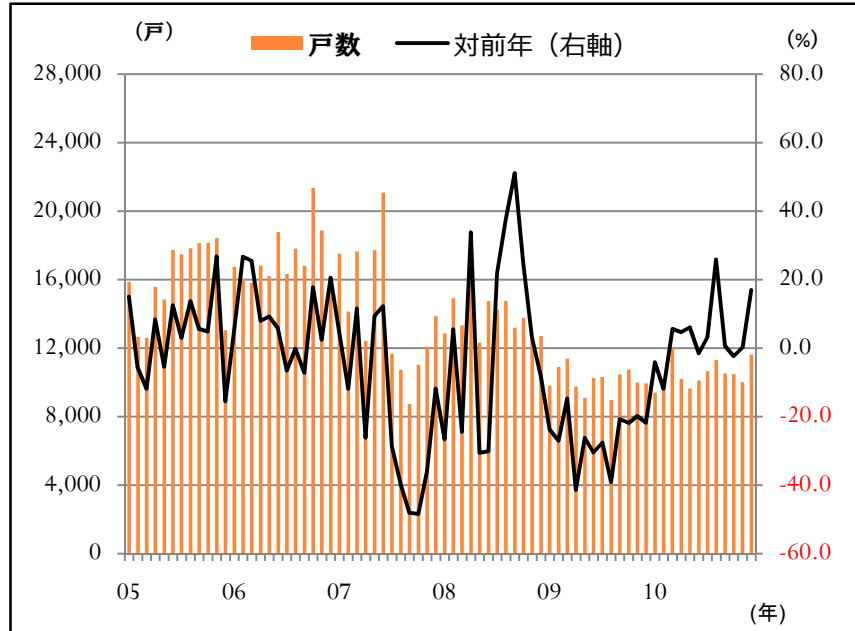
○全国は、前年同月比▲3.3%(実質)。

内訳は、被服及び履物▲11.3%、交通・通信▲11.0%、教育▲7.4%等がマイナス。プラスだったのは、住居+10.8%、家具・家事用品+5.3%等。

\* 近畿の対前年同月実質増減率比は、総務省資料に基づき当会にて計算。

## ～住宅投資～

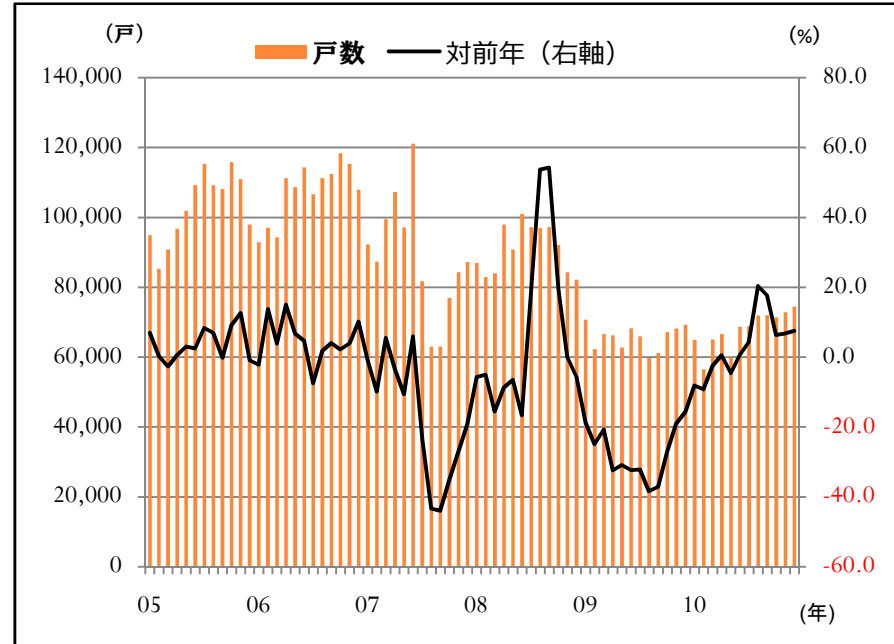
新規住宅着工戸数（近畿・2010年12月まで）



(出所) 国土交通省資料

- ・ 12月の近畿の新設住宅着工件数は11,635戸、前年同月比+17.0%。2カ月連続のプラス。
- ・ 利用関係別の対前年同月比を見ると、持家が+10.3%と5カ月連続のプラス。貸家が+15.9%と3カ月ぶりのプラス。分譲は+42.8%と2カ月連続のプラス。分譲のうち、マンションが+98.0%と3カ月ぶりのプラス。一戸建て住宅は+12.4%と3カ月連続のプラス。

新規住宅着工戸数（全国・2010年12月まで）

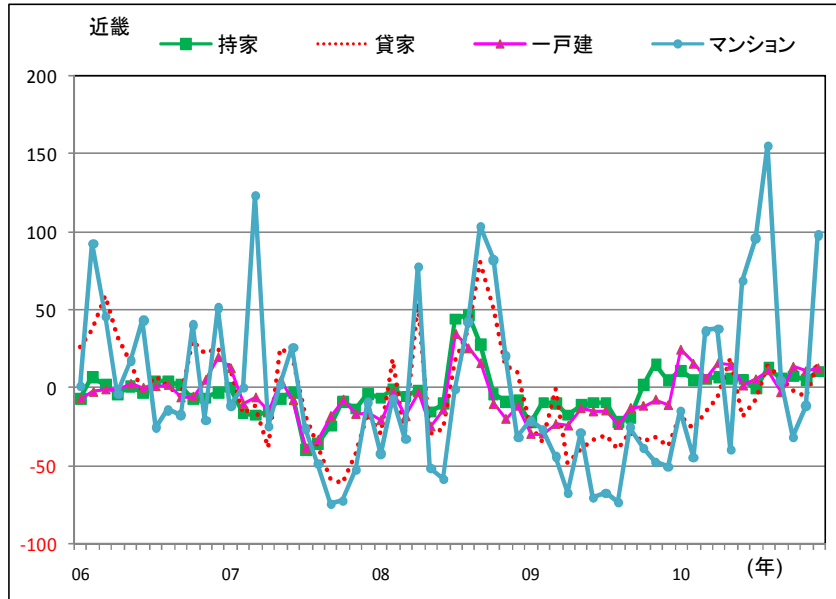


(出所) 国土交通省資料

- ・ 12月の全国の新設住宅着工件数は74,517戸、前年同月比+7.5%と7カ月連続のプラス。
- ・ 利用関係別に見ると、持家+11.8%、貸家▲8.4%、分譲+37.6%。分譲のうち、マンションが+64.5%と前年から大幅に増加。一戸建て住宅が+19.4%。持家が14カ月連続、マンションが7カ月連続、一戸建てが11カ月連続でそれぞれプラス。貸家は3カ月連続の減少。

# 住宅投資～近畿圏のマンション動向～

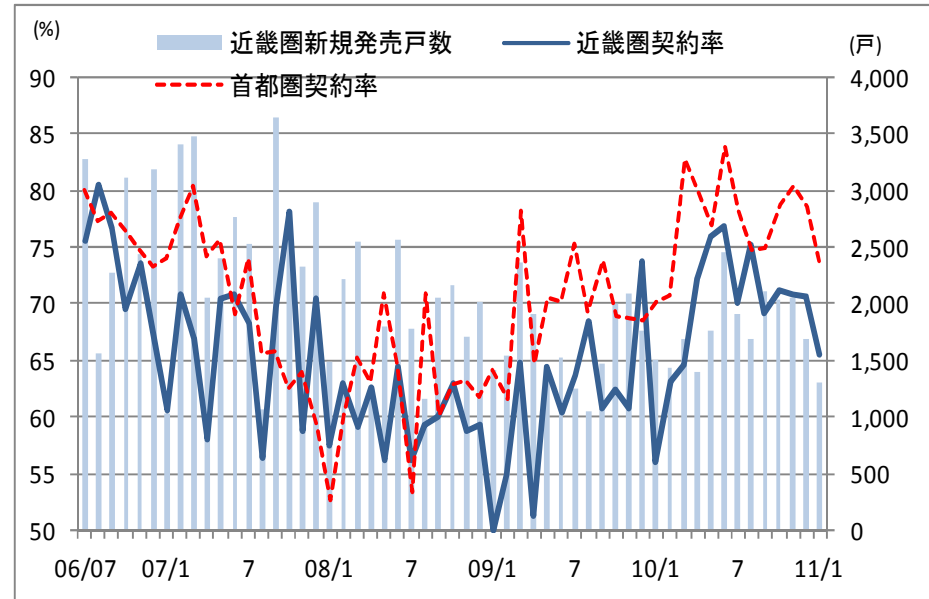
利用関係別 新規住宅着工戸数 前年同月比(近畿・2010年12月まで)



出所:国土交通省

- ・持家は、06年度は4,000戸前後で推移していたが、07年7月頃から2,500戸前後に減少。一旦持ち直したものの08年後半から再び2,000戸台に減少。足下は、住宅版エコポイント等の政策の効果もあり、6月以降3,000戸台に回復。11月も3カ月連続で前年比プラスとなり、持ち直しの動きが見られる。
- ・分譲のうち一戸建ては、一旦2,000戸を割り減少したが、4月以降2,000戸台に回復。政策の効果もあり、持ち直しの動きが見られる。
- ・分譲のうち、マンションの新規着工戸数は09年6-8月の3ヶ月間、1,000戸を割り、大きく落ち込んだが、10年4月以降2,000戸台に回復。足下12月の新規着工戸数は2,259戸と前年比大幅のプラス。
- ・引き続き、住宅版エコポイント等の経済対策の効果期待される。

マンション契約率及び新規発売戸数(2011年1月まで)



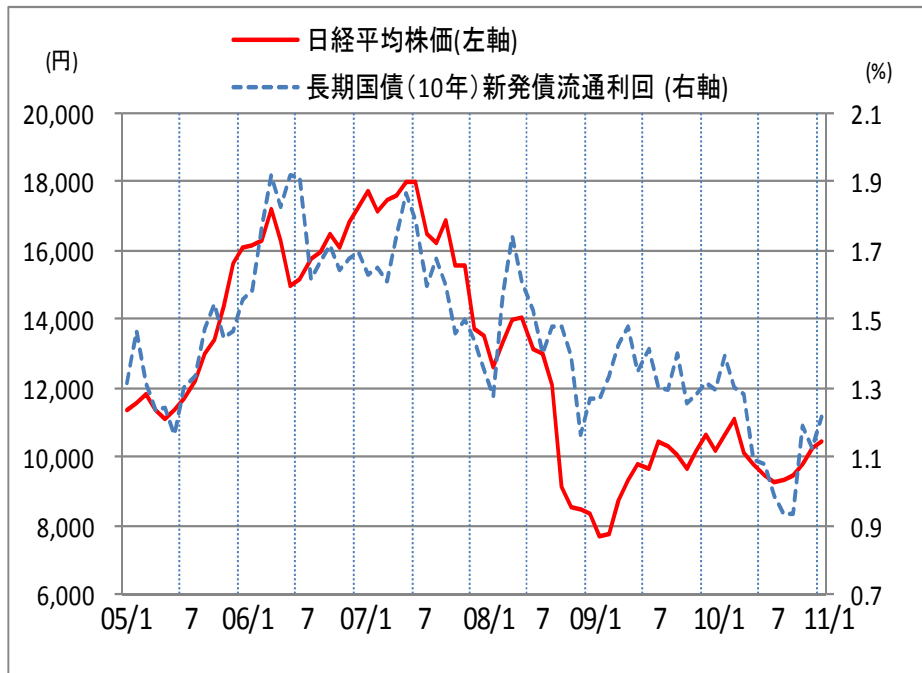
出所:不動産経済研究所資料

- ・近畿のマンション契約率は、09年に入り大きく落ち込み、50%台が続いたが、2010年4月-12月は、9月を除き、好不調の目安とされる70%を上回った。足下1月の契約率は65.6%、前年同月比+9.5ポイント、前月比▲7.1ポイント。1月は7物件83戸が即日完売。
- ・販売在庫は、10年8月までは減少傾向が続いていたが、9月以降微増と微減が続いている。1月末の在庫は3,750戸、前月末比221戸の減少。
- ・2010年年間の近畿の新規発売戸数は2万1,716戸、前年比+9.8%、1,932戸の増加。月間契約率の平均は70.2%、前年比+8.9ポイントの増加。
- ・2011年の発売戸数は、+10.5%の2万4,000戸の見込み。



## ～株式・長期金利～

日経平均株価(期中平均)・長期国債新発債流通利回(月末)  
(2011年1月まで)

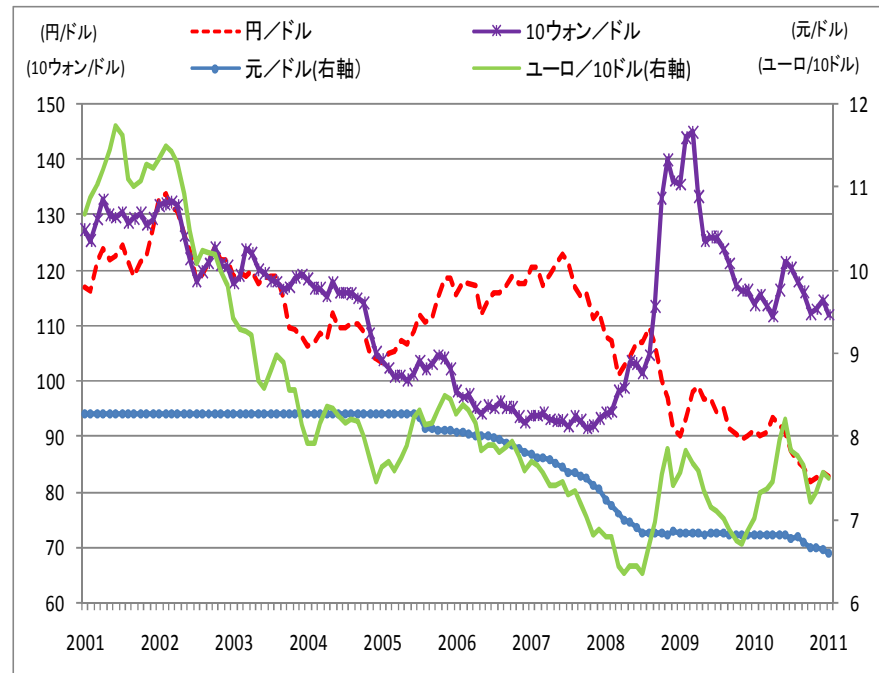


(出所) 日本経済新聞社

- ・1月の日経平均株価(期中平均)は10449.53円で、12月より195.07円の上昇。2カ月連続で期中平均が1万円台となった。
- ・1月末の長期国債(10年)新発債流通利回りは、年率1.22%、12月末からは0.093%の上昇。

## ～為替相場～

為替相場の動き(期中平均値・2011年1月まで)

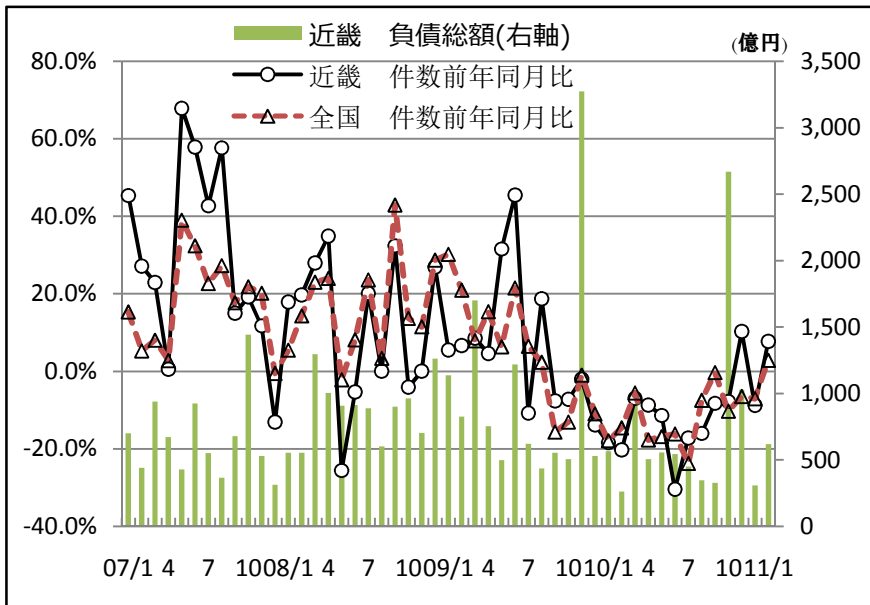


(出所) FRB

| 通貨     | 12月<br>(期中平均) | 1月<br>(期中平均) | 前月比            |
|--------|---------------|--------------|----------------|
| 円/ドル   | 83.34         | 82.63        | 0.71 円の円高      |
| ユーロ/ドル | 0.756         | 0.748        | 0.01 ユーロのユーロ高  |
| 元/ドル   | 6.65          | 6.60         | 0.06 元の元高      |
| ウオン/ドル | 1145.48       | 1118.87      | 26.62 ウオンのウオン高 |

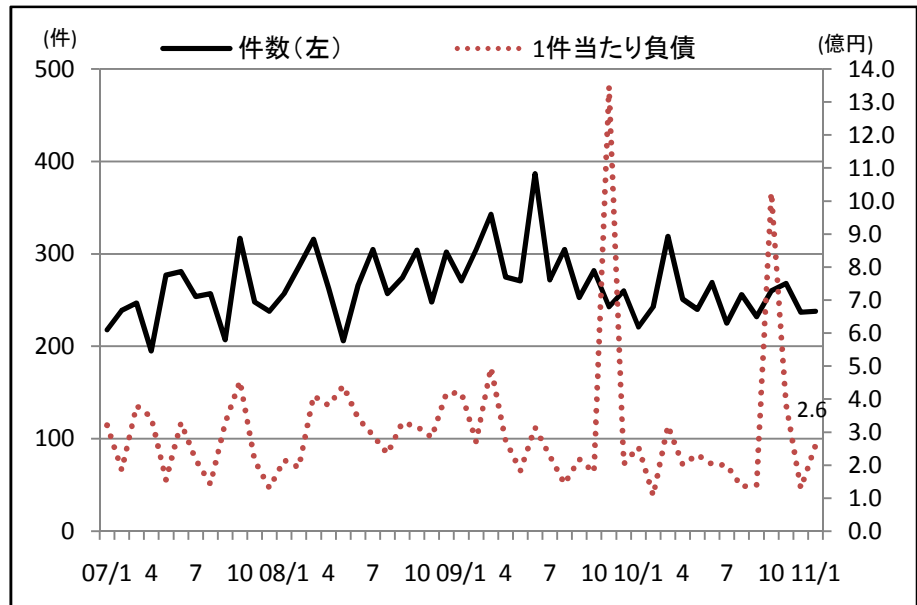
# ～倒産～

倒産件数前年同月比・負債総額の推移 (2011年1月まで)



(出所) 帝国データバンク

近畿の倒産件数と1件当たり負債額の推移



(出所) 帝国データバンク

- ・ 2011年1月の近畿の倒産件数は238件。前年同月比+7.7%と、2カ月ぶりに前年同月を上回った。
- ・ 近畿の負債総額は619億7500万円、前年同月比+9.6%。
- ・ 全国の倒産件数は976件、前年同月比+2.8%。  
全国の負債総額は2,168億円、前年同月比▲ 27.7%。

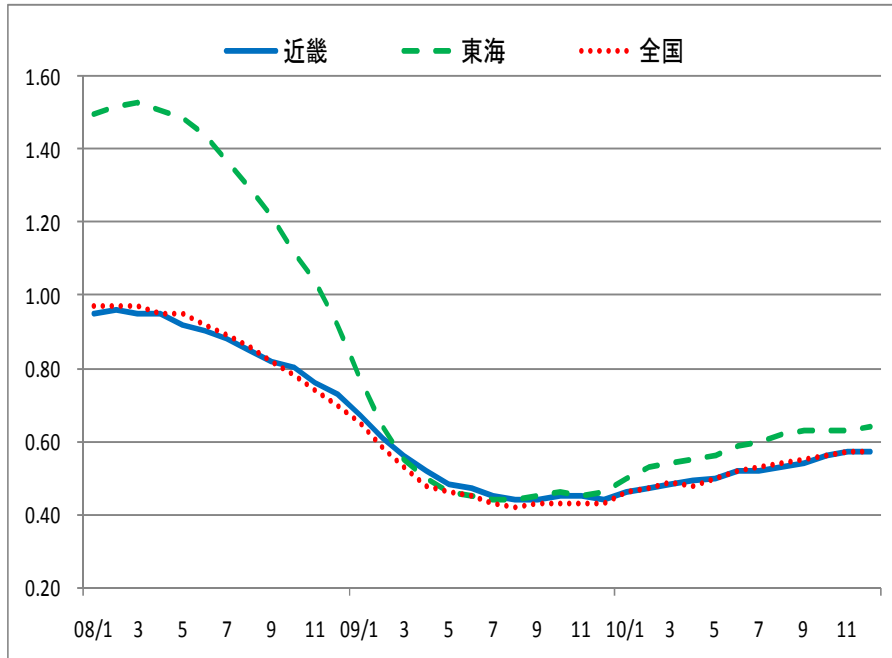
- ・ 1月の近畿の1件当たり負債額は2.6億円。
- ・ 倒産件数・負債総額とも減少傾向にあったため、件数・負債総額ともに前年同月を上回ったのは19か月ぶり。

2010年12月以降の近畿の大型倒産

| 月  | 企業名         | 所在地 | 業種        | 負債総額(億円) |
|----|-------------|-----|-----------|----------|
| 1月 | 志真建設(株)     | 大阪  | 土木建築工事    | 109      |
|    | ヨシキ鋼材(株)    | 大阪  | 鋼材卸       | 90       |
|    | テクノ・ナミケン(株) | 大阪  | 建築用金属製品製造 | 34       |
|    | 太田実業(株)     | 大阪  | 建物売買      | 33       |
|    | (株)FIELD    | 大阪  | 建物売買      | 30       |

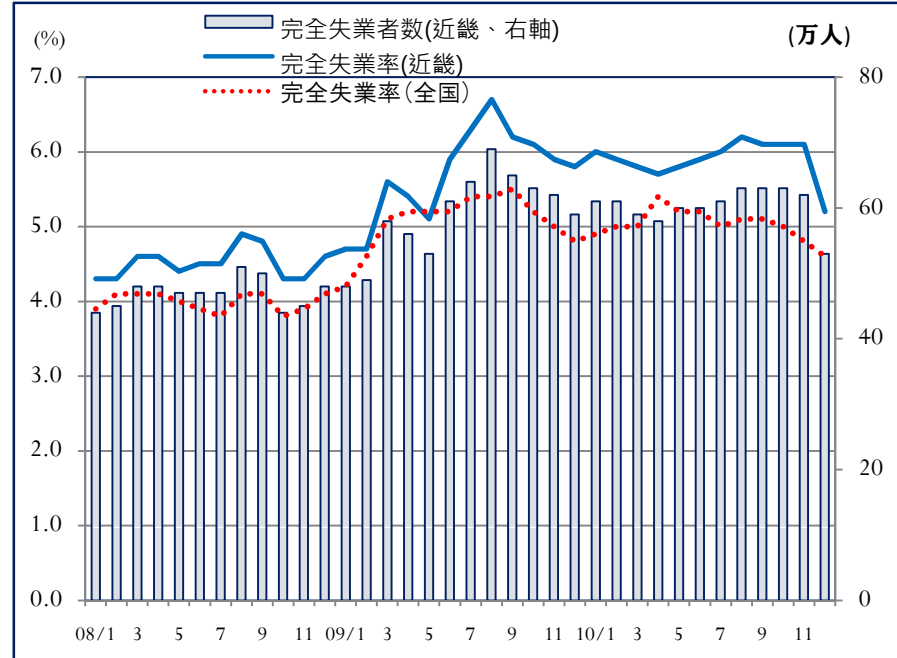
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値・2010年12月まで）



(出所) 厚生労働省

完全失業率の推移（原数値・2010年12月まで）



(出所) 総務省

地域別有効求人倍率（2010年12月：下段は前月比）

| 全国   | 北海道  | 東北   | 南関東   | 北関東  | 北陸   | 東海   | 近畿   | 中国   | 四国   | 九州   |
|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 0.57 | 0.44 | 0.48 | 0.55  | 0.60 | 0.69 | 0.64 | 0.57 | 0.74 | 0.71 | 0.50 |
| 0.00 | 0.00 | 0.01 | ▲0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.00 | 0.02 | 0.02 | 0.00 |

- ・2010年12月の近畿の有効求人倍率は0.57倍。11月まで4カ月連続で上昇したが、前月からは横ばい。
- ・全国は0.57倍で、前月から横ばい。  
地域別に見ると、南関東で低下、東北・北関東・東海・中国・四国で上昇、その他の地域は横ばい。

- ・12月の近畿の完全失業率（原数値）は5.2%。前月の6.1%から0.9ポイントの低下と、大幅に改善。  
前年同月比では0.6ポイントの改善。
- ・12月の全国の完全失業率（原数値）は4.6%、前月（4.8%）から0.2ポイントの低下。
- ・12月の全国の完全失業率（季節調整値）は4.9%、前月（5.1%）から0.2ポイント低下。